

伊勢市教育研究所

たよ町



<第10号>

http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo
E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

令和4年3月1日
伊勢市教育研究所
伊勢市小俣町元町540番地



令和3年度教育研究プロジェクト「歴史教材の活用に係る実践研究」

港中学校公開授業研究会

研究会報告
第3弾

令和4年2月25日（金）助言者として西良孝先生をお迎えし、オンラインで公開授業研究会が行われました。

事前にビデオ撮りした授業を一定期間動画配信し、それを受けての研究協議会となりました。授業者である中西憲太郎教諭からは、社会科の歴史学習にあたって、生徒たちはどこか遠い世界の出来事のように感じてしまいがちだが、身近な地域である校区の大湊を取り上げ、学習していくことで歴史と自分とのつながりをより身近に感じ、歴史の学習や地域への関心、理解を深めていって欲しいと考え実践したと報告がありました。



授業は生き物である。授業は山場から作る。

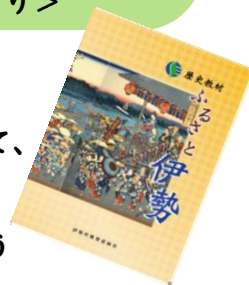
教師は、研修自体が勤務の一部である。

授業は、目標論、目的論、教材論それに対する教具、学習過程論、指導技術論、教師論、児童生徒論が絡まり合いながら、子ども同士話し合い、お互いにいろいろな考え方を取り入れ、進めば進むほど深まるもの。同時に子ども同士の交流で学級がまとまる。この2面性が授業である。授業は生き物で、どう転ぶかはわからないが、それを大切にしながら、最後に認識の深さと学級集団がより良く密接となっていく。これを狙うのが授業であり、これができるのが教師の専門性。教師は、研修自体が勤務の一部である。今の教師は忙しいと思うが、絶えず研修を積んでいく必要がある。

<助言者：西良孝先生（左写真）のお言葉より>

<参加者の感想より>

- ・地域教材を使った授業の具体的なものを見せていただき、大変勉強になった。
- ・生徒一人ひとりが、自分たちの地域・大湊が、通史における歯車の一つとして、刻まれていたことを、知ることができたことが一番の収穫だと思います。
- ・地域と教科をつなぐカリキュラムづくりの大切さを学びました。
- ・中学で地域の学習をされたことが何より大きいと思います。大湊を誇りに思う気持ちと歴史をつなげる取り組みに意味があると考えます。



第2回 不登校対策子ども未来サポート研修会 開催

1月17日(月)、第2回不登校対策子ども未来サポート研修会をオンラインで開催しました。講師として奥田 恭子先生(伊勢市子ども発達支援室主幹)をお迎えし『**不登校の子ども一人ひとりに合わせた支援をするために～発達支援の立場から～**』という演題でご講演いただきました。

講演では、子ども発達支援室とはどのようなことをする機関なのか、事業の説明をしていただくとともに、今年度取り組んでこられたことについても教えていただきました。最後に、実際あった事例をもとに、グループワークで意見交流をしました。

奥田先生のお話より

早期発見と途切れのない支援を！

【伊勢市の課題となっていること】

- ・乳幼児期から就労までの一貫した支援
- ・相談内容の多様化による他機関との連携
- ・相談場所は多くあるが、その都度状況を説明しないとけない

【主な事業】

- ・発達支援についての相談
- ・巡回相談、5歳児発達支援、移行支援訪問と小1訪問、関係機関との連携など
- 点ではなく線での支援を行っている

【相談時に意識していること】

- ・一人ひとりの支援方法は違う対応・方法や改善案も違ってくる
- どのような要因で行きづらくなったのか、個々に合った対応方法や改善案を考える
- ・子どもだけでなく、保護者も不安を抱えている人が多い
- 保護者の視点に立って、心のケアをしていく

利用者の声

- ・どこに相談したらいいかわからない
- ・情報を共有してほしい

伊勢市の子ども達の途切れのない支援を
つなぐ相談機関



～参加された方の感想～

- ・子ども発達支援室のことをくわしく知ることができて、とても有意義な時間を過ごさせていただくことができました。乳幼児期から就労期までの途切れのない支援を続けていくことが、子どもたちやその家族にとって、安心と未来を拓く力につながるのだろうな、と感じました。
- ・どこかの時点で、登校しにくくなったり、不安定になったりする児童・生徒に対して、その時点の困っていること・不安なことなどを聞いたりしていくことが多いが、今回のお話で、それまでの生育の中で困ったことや不安定だったこと、苦手なこと等によることも多いことを、改めて感じました。
- ・「まず発達検査ではなく、相談に重きをおいている」という言葉を強調してみえて、なるほどと思いました。

